

『働きたい!』を合言葉に。

～福祉的就労における若年性認知症の人とのはたらく場づくり～

川崎市高津区

障害者就労支援事業所マイ Way

プロジェクトリーダー 渡辺 典子

1. はじめに

特定非営利活動法人マイ Way では障害者総合支援法で位置づけられた就労継続支援 B 型事業所の運営を川崎市にて 2013 年から開始した。同年、市内にある若年性認知症の人の支援団体から 1 人の男性を紹介され、現在までに 5 名の方に「はたらく場」を提供してきた。本人の事例と仲間の利用者、家族、支援者、そして地域とのかかわりや活動を通しての気づきを報告したい。

2. 事例や取り組みの紹介

A さん (63 歳) は 50 歳代から物忘れが多くなり、58 歳の時に若年性アルツハイマー病と診断を受けた。退職後の居場所を求め、介護保険サービスの利用を案内されたが利用に至らず、マイ Way を紹介された。受け入れ時、職員は障害者支援の専門職が多く、また精神、知的の障害をもつ若いメンバーが多い中で、ともに働くことが可能か不安な声もあった。新しい人間関係での活動は本人にとってのストレスも危惧されたが、元エンジニアであった A さんは細かい作業が得意で、他の利用者への作業のフォローや、社会経験の少ない若い利用者に対して、社会人としての助言をする姿も見られた。反対に、日付や作業工程などを忘れてしまったときに、若い利用者がフォローする姿も見られ、職員が間に入らずにお互いに助け合う新しい関係性が築かれていった。

活動は事業所内にとどまらず、市内にあるサッカースタジアムや霊園の清掃、子供たちのハロウィンパレードのお手伝いなど、その「はたらく場」は地域に広がっている。

毎年、認知症啓発チャリティーイベント「RUN 伴」にも参加しており、去年は事業所を中継所として、職員と利用者が応援団となって若年性認知症のメンバーと市内ランナーをサポートした。今年もユニフォームの発送作業を受託して、川崎市内の参加チームに届けに行くなど、本人と一緒に啓発活動にも取り組んでいる。A さんの、「人や地域とのかかわり、助けてもらうことが大切。そして自分もだれかを助けてあげられれば」という想いを大切に、日々の関わりをもっている。

3. 考察

現在は 3 名の若年性認知症の人と 33 名の障害をもつ利用者と一緒に「はたらく場」づくりに取り組んでいる。どの方も、仲間との仕事は楽しみでもあり、喜びでもあると話されている。仲間との日々のコミュニケーションや、これまでの経験を活かした仕事を継続していくことは、「地域や社会とのつながり」を保ち、結果的に少しでも「進行を遅らせる」ことにつながるのであれば、これほど嬉しいことはない。障害者就労支援事業所での「はたらく場」づくりについて、一番のメリットは「お互いがお互いを支える存在である」ということである。「働きたい」想いを共有して支えあう関係性は、一人ひとりのモチベーションに大きく影響しており、役割を担うことでエンパワメントを引き出し、自己肯定感が本人の社会参加への意欲とつながる効果が期待されるのではないだろうか。障害の利用者が若年性認知症の人を、また若年性認知症の人が障害の利用者

を支えあう相互作用を生み出すことが文化として確立できたことは大きな発見である。

「はたらく場」があることのメリットはそれだけではない。本人と同じく家族も最初は不安の中で、とにかく可能性に賭けてみたいという想いが強い。日々の活動を重ねていくと、本人の様子が変わってくるのを実感される。「笑顔が増えました」「今日も楽しかったよ！」と話してくれましたなど家族も最初のころよりも笑顔が増えてこられる。中には本人が通所されている時間帯に仕事に復帰された家族もいる。一日一日を充実した時間に変えていくこと、それぞれの時間をもつことは、本人はもちろん、家族にとっても大切なことではないだろうか。

一方で課題もある。若年性認知症という病気への正しい理解や、一人ひとりこれまでの経験や環境、性格などによって個別性の高いサポートも必要になる。また、「働く＝賃金労働」以外の働き方や、仕事の内容も模索をしていく必要があり、働き方への変化、暮らし方への変化に合わせて、地域や社会とのつながりを持ち続けていけるように、仲間と出会えるように、サポートを続けていきたい。

4. おわりに

障害があってもなくても、だれであれ、社会の一員としてそれぞれが役割をもち、好きなことにチャレンジし続けることのできる地域社会。一人ひとりの「はたらきたい」想いを叶える。そんな“当たり前”な共生社会の実現に向けて、これからも、チャレンジし続けていきたい。



室内での作業



RUN 伴 2019 仲間と一緒に



市民向け 認知症サポーター養成講座



ハロウィンパレードにて